



高槻市議会議員 ののうえ愛

活動報告 NEWS

高槻市議会議員 野々上愛 (ののうえあい) 1977年 高槻市生まれ。
阿武野幼／小／中・三島高卒、関西外語短大卒、龍谷大法学部卒、同志社大院中退。高槻市議会議員、2期目。
福祉企業委員会所属、史跡整備等特別委員会委員長、民主・元気ネット政調会長。エコ・ローカルパーティーを目指す
「みどり関西」の共同代表として、平和と環境、若者の政治参加をテーマに活動。1歳の子息の子育てとの両立に奔走中。

SOCIUS

socius(ソシウス)ラテン語で「仲間の」意

2011年 春号 3月

3月定例議会

3月16日の3月議会最終日の本会議は、東日本大震災でお亡くなりになられた方への黙祷から始まりました。

高槻市では、11日の地震発生から間もなく、消防の救助隊が現地へ向かい、続いて水道からも支援隊が出発しました。また府を通じて高槻市の備蓄物資も被災地域へと送られました。阪神大震災から16年、災害時における行政の連携は確実に進歩しています。

議会では、東北地方太平洋沖地震災害対策に関する緊急決議を全会一致で可決し、また34人の市議会議員全員で100万円の義援金を送る事を決定しました。

未曾有の複合震災で長期化する事が予想される避難生活、またその後の復興に向けて多くの支援が必要になります。政府・自治体・民間・市民など、あらゆる主体がそれぞれの役割を果たし前に向けて進んで行くことを願います。

どうなる高槻・島本??

3月議会終了後、「高槻・島本広域行政勉強会」の報告書が公表されました。この会は、高槻と島本の行政職員が合併も一つの選択肢とし、広域行政連携に向けた研究・検討を行うものです。しかし、2002年の島本での町民アンケートの結果、半数近くの住民が合併反対との意思表示をしたため、そこで一旦休止になりました。それが昨年、島本町長からの申し入れで再開しました。

島本ではし尿処理施設(高槻の東上牧にあります)、高槻ではごみ焼却工場の建替えが喫緊の課題です。合併か広域連携か、いずれかの手法で連携をしていかななくてはならないと考えますが、今回結局は大きな方向性は示されず、高槻と島本の財政や行政内容について比較をただけに留まってしまいました。

4月の統一自治体選挙に向けて、大阪では橋下知事が「大阪都構想」を掲げています。この動きが高槻・島本の議論にどういった影響を及ぼすかは未知数です。まずは住民本意の議論が出来る環境整備こそ、高槻の取り組むべき課題と考えます。

決定されました。昨年議論された、今後10年間の高槻の姿をあらわすこの計画の審議会委員としてののうえ愛も議論に参加しました。

計画では、人口減少時代や都市間競争の時代という認識のもと、「次代を担う世代が住みたいと思うまちをつくる」「誰もが安心して生活できるまちをつくる」という重点目標が掲げられました。この総合計画の下にそれぞれの分野の具体的な計画が組み立てられるので、計画自体は抽象的な表現が目立ちますが、大きな違和感が残ったのは「都市間競争」と言う考え方です。人口減少時代に入り、他市に負けない自治体経営を、と言う発想は、自治体にも勝ち組・負け組をつくる事になりナンセンスです。

これからの時代は、協調と連帯の“都市間連携”こそが真の地方分権への道につながります。みんな違ってみんないい。そんな考えを高槻でもまちづくりの根底に据えたいものです。成長社会から成熟社会へ、大きく考え方を変えて行くときです。

また高槻市では昨年末に「高槻市第5次総合計画」が

知っておくと便利?

詳しくは裏面へ

TEL072-674-1111 & #7119

コールセンター



高槻市コールセンター

TEL **072-674-1111** (8時から21時まで)

今年1月から 事業がスタートしました。
市の手続きや制度の紹介、イベントなどの
問い合わせについてオペレーターが応答します。



年間委託料3354万3千円で民間会社と契約し、外部のコールセンターで応答にあたります。近年各地の市役所で導入が進むコールセンターですが、高槻市民のみなさんにとって便利なものとなるでしょうか？



救急安心センター大阪

#7119 (24時間対応)

昨年12月1日から高槻でもスタートしたサービスで、
医師・看護師が無料で電話相談に応じます。
119番で救急車を呼ぶかどうか迷ったときには、
まずこの番号にお電話を。



大阪市が始めたこのサービスは、大阪府内の各市町村が大阪市に負担金を支払う形で運営しています。本来、広域医療は都道府県の仕事ですが、大阪では市町村の自主的な取り組みに任せられている状況です。
橋下さん、都構想もいいいけれど、大阪府の本来の役割をもっと果たして下さい！

あとがきにかえて

今回の巨大地震は、多くの人々の命や家屋を奪い、街を破壊し、また安全性が疑問視されていた原子力発電所において大事故を引き起こしました。「災害に強い街づくり」は重要な政策ですが、想定外の破壊的な天災を避けることは現在の人類には困難であると言わざるを得ません。

大都市圏でのエネルギーの大量消費のために、「地震列島日本」の危険性を無視し地方で強権的に建設が進められてきた原子力行政、そして右肩あがりの経済発展を求めてきた経済・雇用政策や地域政策は、大きく見直される時に来ました。

大自然の猛威を前にして、国家や民族の争い、実態経済とかけ離れた金儲けや即物的な利益の追求がいかに無意味であり、弊害のあるものか、あらためて痛感させられました。

私たちに必要なのは、こうした古い考え方や政策を根本的に転換し、「質素でも、心豊かに、安心して暮らすことのできる」社会をつくることです。被災された方々の助け合いや周辺自治体での受け入れやボランティア活動などに見られるような社会的な連帯こそが、災害に耐えうる社会をつくり、多様な人々が共に生きることのできる社会へとつながります。

今、被災地の避難所では、多くの物資が欠乏しています。長期化すれば、健康の問題も深刻になります。必要な物資やサービスを必要な人たちに確実に届けられる仕組みは“政治”が果たすべき重要な役割です。

私は、一人の市民として、そして政治家として、被災地の方々の救援・支援に力を注ぐと共に、「環境と平和」「連帯と公正」を掲げ、人にやさしい社会を目指し、高槻から政治を建て直すため、全力で取り組みます。

2011年3月 野々上愛

高槻市議会議員 ののうえ愛
活動報告ニュース

「ソシウス」

2011年春号3月

●発行：野々上 愛
●お問い合わせ・ご意見

【民主・元気ネット】

高槻市桃園町2-1 本館2階

民主・元気ネット 会派控室

TEL 072-674-7111 (代表)

【ののうえ愛 事務所】

高槻市氷室町4-1-5

TEL & FAX 072-695-1313

メールアドレス info@nonouei.net

@nonouei

twitterでも
日々発信中!